公益財団法人 博報堂教育財団

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、あわせてその活動に関する調査研究を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に設立されました。以降、「子ども」「ことば」「教育」を活動領域と捉え、様々な活動を行っています。
財団設立時から続く優れた教育実践活動を顕彰する「博報賞」をはじめ「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」「日本語教育プログラム」「社会啓発事業」さらに「調査研究事業」などの活動を行っています。

詳細 ▶ WEB 博報堂教育財団

博報賞

博報賞は、児童教育の現場で優れた実践を行う学校・団体・教育実践者を顕彰する賞です。「ことばの力を育むことで、子どもたちの成長に寄与したい」という思いのもと、教育現場の活性化につながる先駆的・独創的な実践や、波及効果が期待される草の根的な活動と貢献をたたえています。第56回は全国から102件の応募があり、厳正な審査の結果、博報賞12件（うち文部科学大臣賞3件）、功労賞8件、奨励賞15件を選出しました。いずれも人とのつながりや協働を大切にしながら、子どもたちの主体性を引き出す取り組みが高く評価されました。

詳細 ▶ WEB 博報賞

教職育成奨学金

児童教育・国語教育を支える教育指導者の育成を目的に、教職を目指す大学生・大学院生を支援しています。推薦依頼大学から推薦された教員志望学生に奨学金を給付するとともに、財団独自の研修を通じて学びの機会を提供しています。また、奨学金給付修了後も教員という同じ志を持つ仲間とのつながりを支援し、2025年度には修了後1～3年目の奨学生を対象とした宿泊型プログラムを実施しました。





TOPICS

第56回「博報賞」博報賞・文部科学大臣賞 受賞

**正しく発音できる喜びを実感し、
喜んで話す児童を育てることばの教室**

子どもの「変容の過程」を支える工夫とサポート

早坂和枝氏は、10年以上にわたり小学校の言語障害通級指導教室（ことばの教室）を担当し、構音に困難のある児童を支援してきました。言葉がうまく伝わらないことなどから引け目を感じやすい児童に対し、一人ひとりの「変容の過程」を大切にした実践を行っています。実践では、レーダーチャートを用いた学習振り返りシートを活用し、児童、学級担任、保護者、ことばの教室の担当者が学びの様子を共有しています。こうした取り組みを通じて児童の成長を支え、放送委員会として全校放送に挑戦する児童も見られるなど、意欲や自信を育んでいます。



宮城県大崎市立古川第五小学校 講師
（特別支援教育）
早坂 和枝氏

詳細 ▶ WEB 第56回博報賞の受賞者